

講義名	防災まちづくり論			授業形態	
担当教員	植松 宏之	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生
				ナンバリング・コード	RED383

主題と概要

東日本大震災を契機に、国土計画や地域計画における基本的なコンセプトとして『コンパクト・ネットワーク』が掲げられ、その中で「ダイバシティ」「コネクティビティ」「レジリエンス」の3つのキーワードが基本となっている。これは、少子高齢化・人口減少といった社会経済環境の変化への対応に加えて、地球温暖化などの気象変動のもとでの異常気象や大地震等への対応が喫緊の課題となっていることが背景にある。したがって、これまでの「防災」において基本的な『被害防止』の考え方から、『減災』（計画外力を超える災害発生による被害を軽減する）の考え方にに基づき『災害に強いまちづくり』のための地域防災計画をそれぞれに基づき『事前復興』を含めた地域防災対策・事業を実施する必要がある。そこで本講義では、このような地域防災の基本的考え方や計画手法について基礎的理解を深めるとともに、『災害に強いまちづくり』については、神戸市役所からの招へい講師による講義を組込むことにより、地域防災に関連する業務上の課題や実践事例を理解した上で、地域防災における「自動」「共助」「公助」への基本的理解、そして減災を念頭に置いた「地域防災まちづくり」についても基礎的素養を身につける。

到達目標

従来からの被害防止のための「防災」と近年の被害軽減や事前復興を念頭に置いた「減災」の基本的考え方を理解できるようにする。
 防災の基本となる「自動」「共助」「公助」とは何か、その関係性への理解とともに、個人としての防災・減災における責任・役割についての基本的理解と地域社会としての取り組みとしての「地域防災計画」や「災害に強いまちづくり」に関する理解を深めることができるようになる。
 地域防災に関連する業務上の課題や実践事例を理解することができるようになる。

提出課題

授業で取上げた講義テーマに関して、それぞれの理解度確認のための課題演習（レポート）を予定している。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題演習（レポート）については、登週の授業の中で解説を行い、理解を深める。

評価の基準

平常点（各回のレポート・課題演習など）を30点、確認テスト70点として、評価する。
 講義の最後に実施する確認テストは、受講生は必須とする。
 定期試験は実施しない。

履修にあたっての注意・助言他

防災まちづくり論における基本的な理解は、防災・減災に関する専門基礎分野の基本的素養を身につけるだけにとどまらず、近々の発生確率が高い南海トラフ大地震などの巨大災害に対する自動・共助のあり方を論ずる意義もあり、他の科目と連携を貫いている科目であることに留意してください。
 確認テストは、筆記試験とするが、講義で配布された講義資料のみ持ち込みを認める。携帯電話やパソコンの持ち込みは不可とするので注意されたい。そのためにも授業で説明した内容を講義資料に書き込むなど積極的な学習姿勢を期待する。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					
------	--	--	--	--	--

その他

キャンパスパスを通して、講義資料を事前に配布する。講義当日には、印刷した講義資料を配布する。

授業計画

1. 防災まちづくり論 総論
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、防災まちづくりの概略を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
2. 神戸市からの招へい講師による講義（1）「ライフラインの被害」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、阪神淡路大震災時のインフラ状況を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
3. 神戸市からの招へい講師による講義（2）「危機管理」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、神戸市役所の危機管理を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
4. 神戸市からの招へい講師による講義（3）「消防活動」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、消防活動の役割を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
5. 神戸市からの招へい講師による講義（4）「震災復興支援整理」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、阪神淡路大震災時の整備状況を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
6. 神戸市からの招へい講師による講義（5）「三宮駅周辺再整備計画」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、三宮駅周辺の再整備計画を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
7. 防災まちづくり論 国土計画における「防災」の考え方
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、防災の考え方を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
8. 防災まちづくり論 「防災」と「減災」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、防災と減災を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
9. 防災まちづくり論 「CSRとBCP」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、災害時の自動・共助・公助を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
10. 防災まちづくり論 「企業としての共助」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、企業の共助を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
11. 防災まちづくり論 「CSRとBCP」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、企業のCSRとBCPを予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
12. 防災まちづくり論 「地域防災計画」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、地域防災計画を予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
13. 防災まちづくり論 「災害に強いまちづくり」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、災害に強いまちづくりを予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
14. 防災まちづくり論 「リスクマネジメント」
 予習内容：事前に配布される講義資料を読んで、リスクマネジメントを予習する。（2時間）
 復習内容：講義資料及び講義ノートを確認し、授業内容の理解を深める（2時間）
15. 防災まちづくり論 「防災まちづくり論の振り返りと確認テスト」
 予習内容：第1回から第14回までの講義資料と講義ノートを確認して、確認テストの準備を行う。（4時間）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経済学科共通のディプロマ・ポリシーは「人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。」です。シラバスの到達目標を達成することにより、経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり 阪神淡路大震災で経験してきたことを講義の中で解説し、防災への対策を啓蒙する。

備考